

講座名（専門科目名）	情報統合医学講座（神経内科学）	教授氏名	（連絡教授）貴島晴彦
学生への指導方針	神経筋疾患をめぐるサイエンスを俯瞰的に捉えることができ、国際的に活躍できる研究者を養成するよう指導します。		
学生に対する要望	臨床で疑問に思ったことを解明する研究を推進してください。		
問合せ先	(Tel) 06-6879-3571 (Email) y-kimura@neuro.med.osaka-u.ac.jp	担当者	木村 康義
その他出願にあたっての注意事項等			

当教室では脳血管障害から神経難病まで急性・慢性神経筋疾患を幅広く診療できる神経内科医を輩出するとともに、最先端の治療を目指した基礎・臨床の融合的研究を展開しています。

パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)は高齢化社会の到来に伴い患者数が増加している神経変性疾患ですが、未だ根本的な原因や治療法の開発がなされていません。私たちは主にパーキンソン病の神経細胞で蓄積する α シヌクレインに着目し、その発現や凝集に関わる要因を同定して治療への応用を進めるとともに、患者さんのサンプルを用いた新たな診断法の開発を行っています。ALSについては生体試料や剖検サンプル、動物モデルを駆使して新たな治療法開発に努めています。

脳血管障害については脳卒中センターの主要診療科として急性期患者の血栓溶解療法や血管内治療を積極的に行うとともに、脳虚血病態を制御する内在性機構の基礎的解析、発症リスクを規定するサロゲートマーカーや合併症の解析を行っています。

多発性硬化症(MS)、重症筋無力症をはじめとする自己免疫性神経筋疾患に関しては精密医療を目指して、遺伝的要因や環境要因を患者さんのサンプルを用いて解析するとともに、治療を最適化するためのバイオマーカーの開発を行っています。また、動物モデルなどを使用してグリア細胞、免疫細胞の観点からMSなどの神経免疫疾患や変性疾患を解明し、治療方法を見出そうとしております。

多くの神経疾患では運動機能の障害が生じるため、運動制御の生理学的基盤を理解してその疾患における異常を理解することは治療を考える上で重要です。

最後に、私たちは病理学教室、精神医学教室、法医学教室、脳神経外科教室などと共同でブレインバンクを立ち上げ、開頭剖検で得られた脳サンプルを基礎研究に役立てる努力をしています。特にパーキンソン病とその関連疾患、ALSの脳を用い、その遺伝子発現を網羅的に解析しています。